

千支甲子
知生大黒

報親
雙心
槌本望

赤坂山家文作
北伝画

207
582





207
582



抑々天命ハ天の度律の威カキ人々を國家
と爲し給ひし由人世は傳く大國主れ尊と宗
敬しなりて法人もまきといのるる三方の童子
もよ知所之の神の相上よおどらぬ中
極つた代給乃口紙志あも只アん志より
とまらぬにあつ次上もむ不換つ以えとふ
うはどのぐりう開家をも不字とるのれえ
なり夫は仕ふる白胤ハ小判とく人々を
あふまも正座のんるれものあま毒を



なるく仇をむく也且白犬ハ三日の忌紙三
 年小送忠臣おきて自六宗の名号をえ
 つと亦赤城の楯股の素人小化く近辺に
 高くともあらず誠よ世界をえんもあふて
 つるおの清くあふかかゆるんされりしれ
 山の寺の枝折あつらひもまごえぬ其の
 絵双紙の作^れをる約米めら三冊物の一番
 叟是も仙老の神舞臺世上一流の極方涉
 せのそ神をひ上まゝとする

享和四子の揚春

山家女自序

そのゆく大天とヤチあり
 びとくとあふのふれあり
 ばとて使人を人きあふあり
 せきて初ふふれありせん
 市どちてあふをえん
 ありとあふとあふせん
 のちり決りて全編の山と
 あふりるがやとあふくねえ
 小むん手あふとあり出のひて
 世の老の白竹とあふとあふ
 かのへあつたあふ
 このふあふとあふとあふ
 まふあふとあふとあふ
 あふとあふとあふとあふ
 吹小なんがてんがあふ
 吹小なんがてんがあふ
 吹小なんがてんがあふ
 吹小なんがてんがあふ



8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 6 7 8 9 50

るはらうかみあまのまのおやぶん
ざらねことつらふ山く谷まを
そらけぬらふぶねがまも
とま下小あぶふあぶのり
たんます

あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに

あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに

あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに

あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに

あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに

あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに

あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに

あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに

あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに

あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに

あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに

あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに

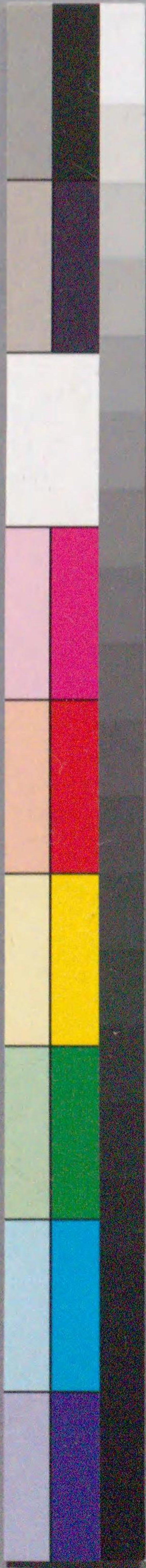
あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに

あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに

あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに

あやのあしに
あやのあしに
あやのあしに





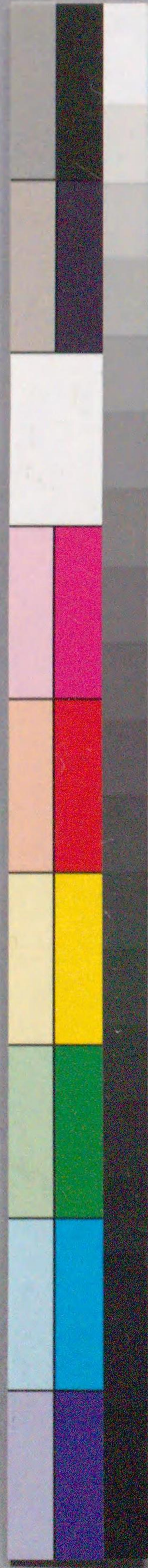
善人を環玉の如く。悪人を...



こゝろおちちせかれんハハ
 一忠大にわあせとけあち
 あんふいゝぬんてす
 るれーおれおのま
 とまのろ
 母ろろ
 ちのいん
 ららぬや
 小してん
 ののい
 とつみや
 うぬい
 の用んちちろよ
 ちハ
 けいけい
 まま
 あいれ
 かなが
 いわ
 ちのい
 ちか
 あや
 ちち
 ちち







国立国会図書館 報親警小槌本望 : 3卷 207-582

ガラス使用



又此の白文へ白菊
のたはしむめゆら
の福を成せきさ
けはのせれうん
まんとよりうへも
るいあ
あしきまじふま
るめだすなふで
ぶさるのみと
するが
はらまじとみとま
平いあれとかが
あしすつ
るまが
かか
さか
とち
つら
あ
い
あ

あれが
くわ
し
あ
あ



207
582

第四季 文部
其の益あり書は贈る人
其の益あり書は贈る人
其の益あり書は贈る人

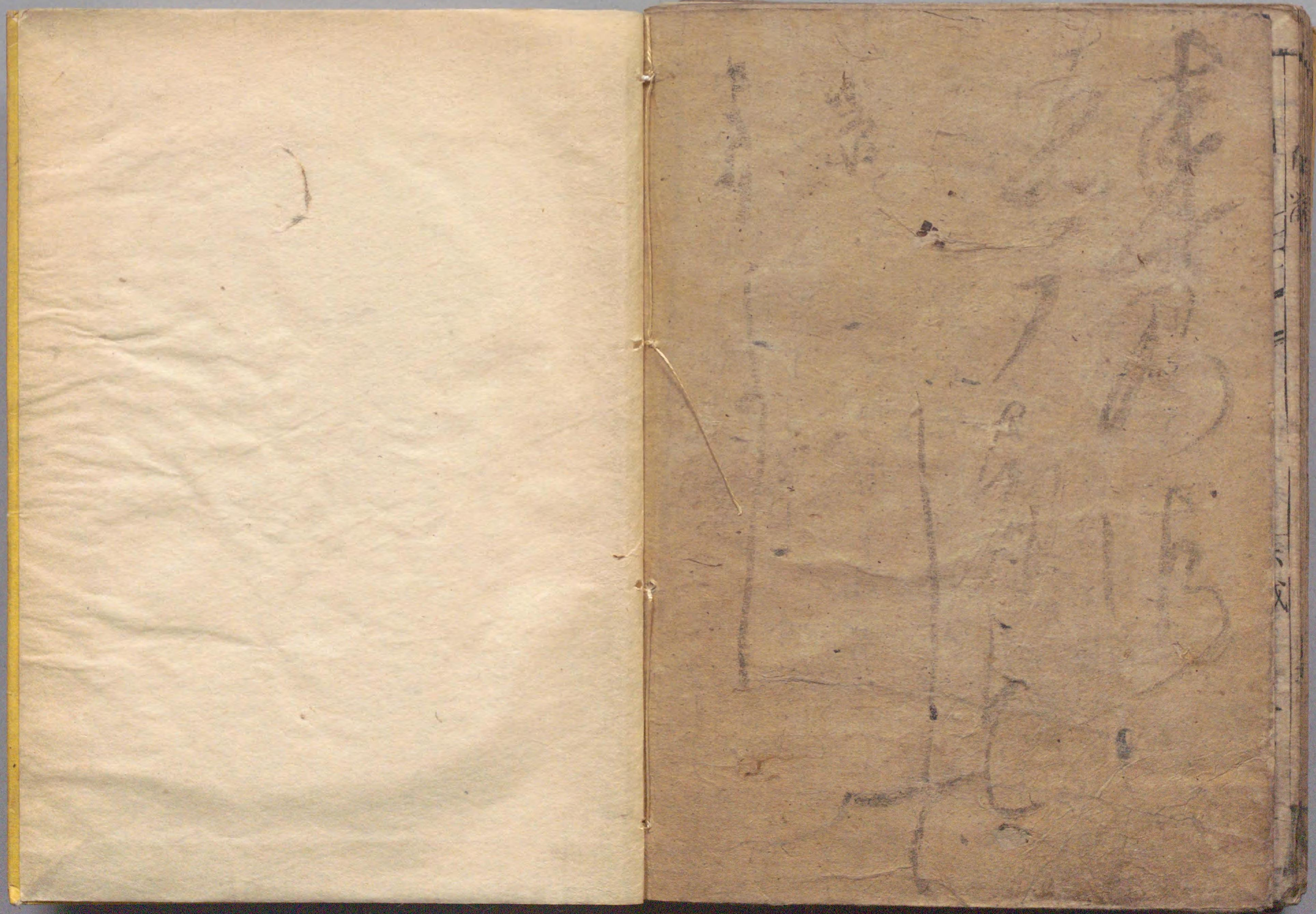
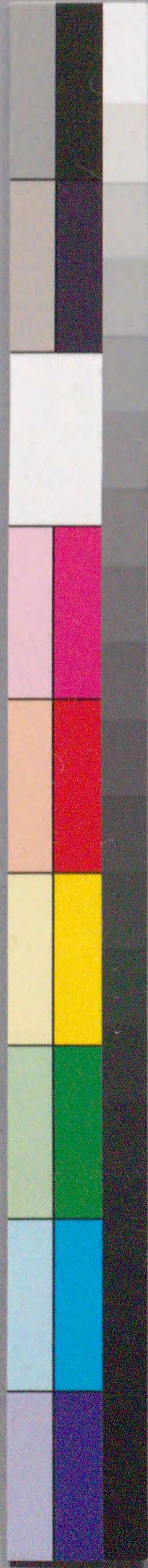


赤城山家女述

盛齊
北盛要

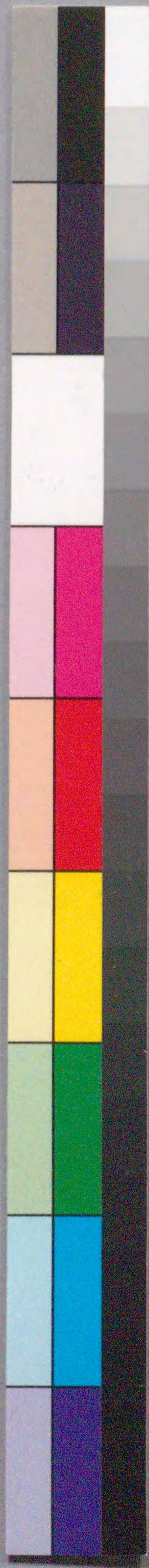
お八は
あんなり
の大意
おんあつむ
四の八と
もどろ太
てんへり
向ふ人とも
けらめめ
かた
め
む人あ



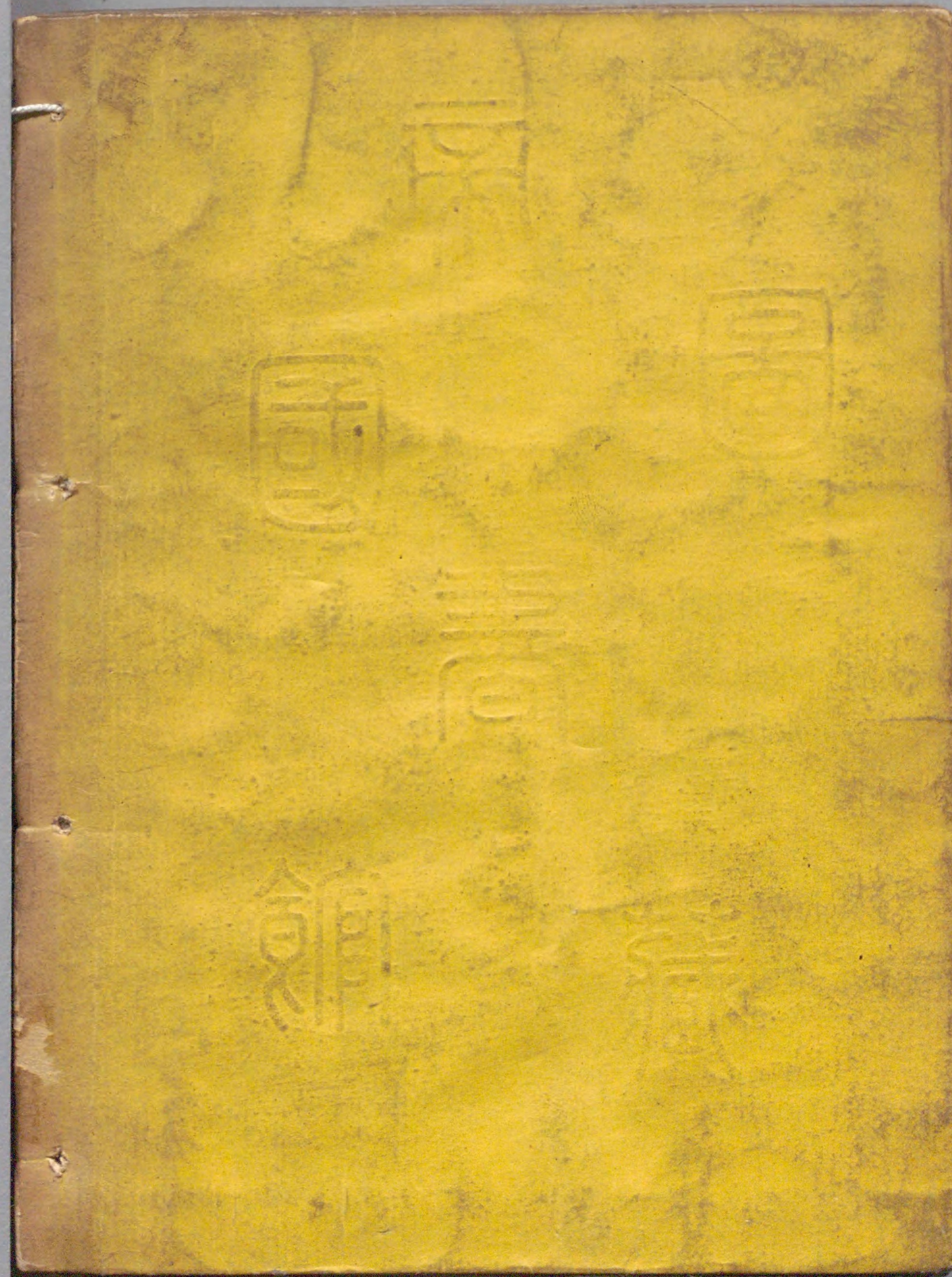


国立国会図書館 報親警小槌本望 : 3卷 207-582

ガラス使用



国立国会図書館 報親讐小槌本望 : 3卷 207-582



ガラス使用

